

画像処理

メッキとはんだ判別

アルゴルが装置開発

画像処理装置開発のアルゴル（南箕輪村、今井博充社長）は金メッキとはんだを判別できる検査装置を開発、販売を始めた。専用ソフトを開発することで他社製品よりも

検査速度が速いのが特徴。

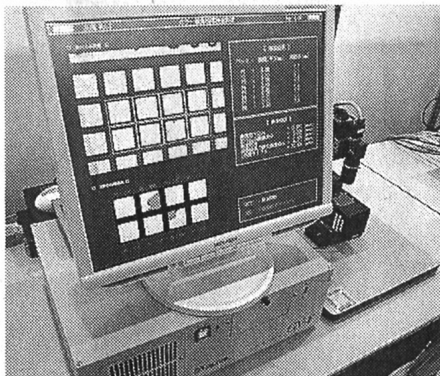
装置はCCD（電荷結合素子）カメラで撮影した基板などの画像を取り込んで瞬時に検査する。あらかじめ良品のデータを登録しておき、取り込んだ画像と異なる場合に不良品として検出する。メッキの判別だけではなく、メッキが欠けていないかも検査

金メッキや銀メッキ、

はんだは光の反射率が似ているため画像にすると区別が難しい。違いを判

別できるカラー画像処理技術を開発することで実現した。メッキなどの判別に特化し、検査速度を1秒間あたり25回に高めた。他社製品は10回程度が一般的という。

価格はカメラや装置などを含めて120万円から。年間100台程度の販売を目指す。



メッキ部にはんだが付着している不良品などを検出できる

を登録しておき、取り込んだ画像と異なる場合に不良品として検出する。メッキの判別だけではなく、メッキが欠けていないかも検査